



# しほろ議会だより

平成27年8月 No. 157 ■発行/士幌町議会 ■HPアドレス <http://www.shihoro.jp/assembly/>

## Contents

- 6月定例会 条例改正 ほか ..... 2ページ
- 一般質問 子どもの発達支援について ほか5件 ..... 4ページ
- 先進地行政視察・弁当の日 ..... 7ページ
- かけ橋 「士幌町に移住した思いで」  
帯広信用金庫士幌支店 高坂 一人さん ..... 8ページ

**第6期町づくり総合計画・  
地方創生策定及び新拠点「道の駅」  
検討特別委員会で先進地行政視察を実施!**

平成27年  
第2回  
定例会

# 第6期町づくり総合計画・地方創生策定・ 新拠点「道の駅」検討特別委員会を設置

国民健康保険税条例 賛成多数で可決



改選後初の定例会（6月19日）

第2回定例会が、6月19日から25日までの会期で開会。

初日は行政報告、教育行政報告、監報告ほか3件の報告の後、一般議案5件を審議。（20日から22日までは議案審議のため休会）

23日は、改選後初の一般質問が行われ新人議員を含む6人の議員が一般質問を行い、一般議案3件、補正予算4件を審議。

24日は、追加議案6件、特別委員会の設置等、意見書案5件を審議し、全ての議件を原案どおり可決閉会した。

## 特別委員会の設置

今年度は、「土幌町第6期町づくり総合計画（平成28年度～37年度までの土幌町の進むべき方向を示す指針）」の策定、「まち・ひと・しごと創生法」による人口ロビジョン及び地方版総合戦略（平成27年度～31年度）の策定、新拠点「道の駅」の基本・実施設計が行われるため、これらの案件を審議・調査するため、次の特別委員会を設置する。

### 【特別委員会の名称】

土幌町第6期町づくり総合計画・地方創生策定及び新拠点「道の駅」検討特別委員会

### 【特別委員の定数】

議長を除く全員

（委員数11名）

### 【委員長及び副委員長】

委員長 細井文次議員

副委員長 加藤宏一議員

### 【設置の期間】

平成27年6月24日～

平成28年3月30日

### 【議員の派遣】

7月7日の道議長会主催の議員研修会に併せ、先進地行政視察を実施。

## 国保税の条例改正

### 【国民健康保険税課税限度額の改正】

区分	現行	改正
医療分	51万円	52万円
後期高齢者支援金分	16万円	17万円
介護納付金分	14万円	16万円
合計	81万円	85万円

地方税法の改正に伴い、国民健康保険税の課税限度額を引き上げ、併せて5割軽減及び2割軽減の対象世帯の軽減措置の拡充を行う。

### 【国民健康保険税の軽減措置拡充】

	軽減基準	
	現行	改正
7割軽減	33万円以下	33万円以下
5割軽減	33万円＋（24.5万円×（被保険者数＋特定同一世帯所属者数））以下	33万円＋（26万円×（被保険者数＋特定同一世帯所属者数））以下
2割軽減	33万円＋（45万円×（被保険者数＋特定同一世帯所属者数））以下	33万円＋（47万円×（被保険者数＋特定同一世帯所属者数））以下

### 反対討論

清水秀雄議員

改正により国保税限度額を引き上げ、同時に軽減基準額の引き上げを行い、中間所得層の加重負担をさげ、国保税増収を図るが、今の国保加入者の7割が年金生活者、失業者等の無職者と非正規労働者となっている。適切な国庫負担なしには成り立たない医療保険だが、国庫負担の削減や国保加入者の貧困化が深刻になり国保税は高騰を続け、限度額引き上げも限界となっており、改正には反対する。

### 賛成討論

加藤宏一議員

国保は、安心して医療を受けられる目的でつくられた制度であり、国保加入者が保険税を出しあい、保険税は所得に応じて分担しあうものです。今回の改正は、高所得者層の負担増の一方で中間所得層の保険税負担に配慮し、社会情勢の変化に対応した所得再配分政策であり、低所得者層の保険税軽減対象が拡大するもので、改正について賛成する。

※討論後の裁決で賛成9人、反対2人。賛成多数で原案どおり可決する。



大西 米明 議員  
子どもの発達支援について

飯島 勝 議員  
子ども・子育て支援事業計画について

中村 貢 議員  
空き家・空き地対策について

和田 鶴三 議員  
介護制度の改正による影響と本町の対策について

清水 秀雄 議員  
住宅リフォーム助成事業について

河口 和吉 議員  
強風対策について

## 発達支援

### 特別支援学校教諭を担任に

教諭、職員のスキルアップを図る



大西米明 議員

#### 質問

近年、発達障害の子どもが増加している。早期発見、早期支援をするシステムづくりが重要であると考えるが、

#### 小林町長答弁

町では、保健福祉課、子ども課、教育委員会が連携して子どもの発達を支援することとしている。

#### 質問

発達障害支援法での町の責務として就学前、学校、就労地域における生活、家族に対するなど5項目の支援がある。

#### 小林町長答弁

教諭の特別支援学校教諭免許の取得、職員の研修等によるスキルアップを町として取り組む。

#### 質問

特別支援学級担当で、特別支援学校教諭免許の取得者は25名中6名ですが、発達障害に理解の深い教諭に担当してもらいたいと思う保護者は多いのではないかと。

#### 堀江教育長答弁

認定講習の受講を一層勧め、教諭のスキルアップを図っていく。

#### 発達障害者支援法とは

「発達障害」は、身近にあるけれども、社会の中で十分知られていない障害でした。また、「発達障害」のある人は、特性に応じた支援を受けることができれば十分に力を発揮できる可能性がありますが、従来はその支援体制が十分でなかった。

このような背景を踏まえ、発達障害について社会全体で理解して支援を行っていくために、平成17年から「発達障害者支援法」が施行されている。

## 空き家

### 危険な空き家及び空き地の対策は

解体費用の増額等、同時に空き地対策も



中村 貢 議員

#### 質問

危険な空き家に、市町村が撤去勧告命令等を出すことができる推進特別措置法が全面施行された。本町において約130戸の空き家があるが、この特別措置法の運用をどのように考えているのか。

#### 小林町長答弁

町としては、空き家等解体撤去費助成事業などを実施しているが、居住困難な空き家の撤去には、コストや労力がかかり今年度予算において拡充する方向で検討する。

#### 質問

適切に管理されていない空き地の景観、衛生等が地域住民の生活環境に大きく影響を与えている。空き地対策につ

いても、どのように考えているのか。

#### 小林町長答弁

空き家、空き地を定住対策の住宅として利用していきたいというのが町の基本的な考えである。従前から解体については所有者に対し助成をしていたが、空き地購入者に対しても同じような扱いで助成し、空き家、空き地は住宅対策として有効に利用できるよう、今後拡充する方向で検討する。



今後増加することが予想される空き家

# 平成27年 第2回定例会

# 一般質問

6月定例会では6人の議員が一般質問に登壇し、理事者の考えをいただきました。内容を要約してお知らせします。全文については議会ホームページに掲載します。

## リフォーム

事業を継続し活性化と雇用の確保を

経済・雇用の状況を勘案し継続を検討



清水秀雄 議員

### 質問

町内経済の活性化を目的に平成25年度から実施した住宅リフォーム助成事業は、26年度との2年間で47件、工事費で5,200万円余りが町内業者の仕事として確保され、商工会発行の商品券は357万円余りが町内に循環した。この事業を継続し、業者並びに労働者の仕事確保に役立てられてはどうか。

### 小林町長答弁

住宅リフォーム費用助成事業は25年度より3年間の事業として開始した。町内の施工業者を利用して住宅リフォームを行った場合、工事費の10%相当を商工会発行の商品券として助成するもので助成額

### 質問

は10万円を限度としている。本事業は町内施工業者の受注機会の拡大並びに雇用の確保、町内の購買の拡大を目的としており、助成金の15倍に当たる5,234万円の工事が町内17の施工業者により行われ、大きな効果があったと評価している。28年度以降の継続については、経済・雇用の状況を勘案し継続の方向で検討したい。

### 小林町長答弁

最高10万円の助成を受けられる制度が十分に周知されていない。周知方法の工夫が必要だ。

## 子育て

安心できる子育ての環境を

関係機関と連携しながら支援を推進



飯島 勝 議員

### 質問

平成27年度から5年間の土幌町子ども・子育て支援事業計画が策定された。この事業を策定するにあたり、様々な意見・要望等があったが、今回の支援事業計画にどのよう

### 小林町長答弁

に盛り込まれたのか。就学前並びに小学生の保護者に対し、ニーズ調査を実施。それらをふまえて町民による委員で構成する子ども・子育て会議に諮問し、調査、審議

### 質問

いただいた答申をもとに、国の示す必須記載事項を中心に策定した。フィンランドでは、妊娠、出産、子育てまで家族を支援

### 小林町長答弁

し続けるネイボラという支援サービスを行っている。このような支援策を土幌町も取り入れてはどうか。ネイボラについては、素晴らしい取り組みだが、本町で実現できるかどうかは十分検討する。子育て支援対策は、町政推進の大きなテーマであり、関係機関と連携して、今後の展開に向けて子育て支援を推進していく。



子育て支援として行っているキッズクラブ

介護保険

介護制度の改正による本町の対策は

順次新しい総合事業へと移行



和田鶴三 議員

質問

要支援1・2の高齢者向けサービスの予防給付については、一部のサービスを市町村の選択による地域支援事業に移行させる制度改正が平成27年から平成29年に行われる。

これまでヘルパーなどの介護専門職が行ってきたサービスをボランティアなど非専門職によるサービスに置き換えられる。ボランティアなどの受け皿は少なく、サービスの低下が危惧される。介護難民をつくらない、つくらせないために本町はどのような対策を考えているのか。

小林町長答弁

介護保険制度の改正により、新しい総合事業が開設されて

いる。新しい総合事業においては、要支援認定者へのサービスと介護予防事業の対象者へのサービスが一体的に提供され、本町では、平成29年4月に完全移行することとしている。新規事業については、関係機関とサービス内容などについて、現在協議を行っている。平成28年度中に試行的に実施できる事業については開始をしていきたい。

質問

介護保険制度は15年が経過し、今まで3年ごとに見直し、改正がされ、サービス・費用の負担が変わってきたが、介護保険制度改正のある要支援1・2該当者の恒常的な費用はどのようになるのか。

小林町長答弁

地域支援事業に移行する中で、サービスの内容・金額については、今後の本格的な実施に向け検討していく。

強風対策

強風対策として耕地防風林の造成を

農業振興対策本部において検討



河口和吉 議員

質問

5月24日の強風により町内でビートを中心に作物の損傷、馬鈴薯の培土の崩れなどの被害があった。また、国道241号では、畑からの表土の飛散による土ぼこりで通行中の車が視界不良のため徐行運転を強いられていた。こうした

強風対策に耕地防風林は非常に有効と思われるが、年々減少傾向にある。町として耕地防風林造成を奨励する考えがあるか伺う。

小林町長答弁

個人所有の耕地防風林については、農作業機械の大型化、日陰になる、枝の飛散などが要因で減少してきた。これまでの経過を考えると町が植栽

費用の一部を助成したとしても新規の耕地防風林の造成が進むかについては疑問がある。今後、既存の耕地防風林の維持、または他の方法による防風対策について農業振興対策本部において検討する。

質問

農業振興と併せ、冬期間の吹雪による視界障害、吹きだまりを防ぐなどの災害防止、また景観形成といった面から、農業だけではなく市街地にもメリットが出るような強風対策の方向性というものを町の方でしっかりと打ち出していきたい。

小林町長答弁

自然環境の保全、災害を防ぐなど全体的に進める必要がある。樹種の選定、より効果的な植え方等についても専門家を、研究していく必要があり、今後対応していきたい。

北海道町村議会  
議員研修会に参加



全道から多くの議員が参加した研修会

7月7日、札幌コンベンションセンターにおいて、全道町村議会議員を対象とした研修会が開催され、本町からも全議員が参加。

研修会では、講師の今村都南雄氏（中央大学名誉教授）が「地方議会を取り巻く最近の動向」と題して、自治体の変革、人口減少、地方創生について講演され、参加した議員は、今後の自治体議会のあり方について研鑽を深めた。

# 先進地に見る・聞く・学ぶ 議員道内先進地行政視察を実施

◎調査期日および場所

7月8日 二セコ町

赤井川村

余市町

7月9日 富良野市

更別村

## ◎調査の経過と概要

全議員による道内先進地行政視察、並びに土幌町第6期町づくり総合計画・地方創生策定及び新拠点「道の駅」検討特別委員会による視察を実施した。

本町では第6期町づくり総合計画・地方創生策定及び新拠点「道の駅」事業に取り組んでいる。当議会では、特別委員会を設置して検討・審査を進めていくうえで、これらに関連して先進的に取り組んでいる5市町村に赴き、視察研修を行った。現在、全委員からの報告を集約し、特別委員会で協議・検討を重ねている。



道の駅の自家産品等野菜直売所（二セコ町）



二セコ町での概要説明



再整備された市街地（富良野市）



公園内の大型遊具（更別村）

## 定例会の昼時、『弁当の日』で交流

町内の全小中学校で実施している「弁当の日」（教育委員会主催）の取り組みを応援、拡大し、子どもたちだけではなく、大人にも食育への関心を深めてもらおうと第2回定例会中の昼時に「大人の弁当の日」を実施しました。

今回は、食育を推進する立場から議員と町理事者、管理職の32人が早起きをして作ったお弁当を囲み、おがずを交換するなどの姿も見られました。いつもとは違った雰囲気の中で、まちづくりについての意見交換も行い親睦を深めていきました。



土幌産の食材を使ったお弁当や色彩鮮やかなお弁当などを持ち寄り、楽しい「弁当の日」となりました。





かけ橋

## 土幌町に移住した思いで

帯広信用金庫土幌支店 高坂 一人さん

皆様、初めまして。

帯広信用金庫の高坂と申します。この度、このような貴重な機会を頂きまして大変感謝を申し上げます。

現在、帯広信用金庫土幌支店は職員6名(男性3名、女性3名)体制で営業しており、私は営業を担当しております。入社12年目に突入し帯広市内の支店や広尾支店等を経験し、ご縁がありまして、平成26年8月から土幌支店にお世話になっております。赴任後、右も左もわからないまま「7000人まじりの仮装盆踊り」に参加したことを鮮明に覚えております。

土幌町に移住しまして早一年が経過しますが、あつといふ間に過ぎたような気がいたします。

当初は職員以外の知り合いは全くない状態で不安でしたが、現在は仕事や商工会青年部活動等を通して名前を憶えてもらえるようになり、毎日充実しております。

土幌町に移住しまして短期間ではありますが、私が感じたことや経験したことを記載していきたいと思えます。

土幌町は「農業が盛んで自然が豊か」という漠然としたイメージしかなかったのですが、移住して町民の皆様と触れ合っただけで感じたことは「優しい方が非常に多く、人との関係が大切にする活発的な町」だということです。

朝から夕方まで営業車で土幌町内を回っておりますが、お客様とすれ違う度に笑顔で

挨拶や手を振って下さり、活力を頂いております。何気ない行動ですが、帯広勤務時代にはこのように挨拶をされる機会が少なく大変新鮮に感じると同時に、この挨拶というコミュニケーションは地域を日々強くしている礎であると思っております。当然のように、子どもたちについても同様に挨拶をしっかりと行っている姿を見ております。また、取引先に向った時には、笑顔で迎えて入れて頂き、面白い会話を通じて仕事を忘れるくらいのおもてなしを受けてまいります。これは一部で書ききれない程まだまだ沢山あります。

仕事以外では、商工会青年部の賛助会員として活動させて頂いております。先月の4

日に青年部が主催する「第35回しほろつち夏祭り花火大会」が開催され、部員の方々の手際の良さに準備段階や本番についていくのが精一杯でしたが、微力ながらお手伝いをさせて頂きました。会場の目の前で花火が上がったことがとても印象に残っております。この近距離で花火を堪能できるのは他町村には無い良さであり強みだと思います。

移住して1年程度ですが、仕事等を通して沢山のひと々と関わらせて頂きました。今後もしんきん職員として皆様にお手伝いが出来たら幸いです。思っております。

町民の皆様、今後ともご指導の程よろしくお願い致します。



子ども連れで賑わった夏祭り

### 議会ホームページをご覧ください。

町民の代表である議員の活動内容を広く住民にお知らせし、開かれた議会を目指すためにホームページを開設しています。

アクセス方法は土幌町のホームページのメニューから土幌町議会を選ぶか、次のアドレスを入力してください。

<http://www.shihoro.jp/assembly/>

### 9月定例会を傍聴しませんか。

第3回定例会は、9月4日から開催を予定しています。

詳しい日程については、チラシ等でお知らせしますので、皆様の傍聴をお待ちしています。